

# 第 75 回東邦医学会総会予稿

11 月 10 日(水)

## A. プロジェクト研究報告

1.

### Elovl3 抑制に伴う睡眠障害による肝脂肪蓄積とインスリン抵抗性改善の検討

梶上 彩子(内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌学分野)

睡眠障害により脂肪合成遺伝子である Elovl3 (Elongation of very long chain acid-like 3) の発現が上昇し、肝脂肪蓄積とインスリン抵抗性が惹起されることを以前の報告で明らかにした。本研究では、肝臓特異的に Elovl3 の発現を抑制させ睡眠障害を引き起こすことにより、肝脂肪蓄積やインスリン抵抗性を評価した。結果、Elovl3 の発現を抑制させた群ではコントロール群と比較して、肝臓内の中性脂肪蓄積を有意に改善させ、グルコース負荷試験で 30 分値にて血糖値は低下した。

## B. プロジェクト研究報告

2.

### 手持ち型 Laser Speckle Flow Graphy を用いたベッドサイドにおける眼血流測定法の確立

渡辺 研人(眼科)

これまで我々は、兎の出血性ショックモデルにおいて LSFG がショックの本態である臓器血流障害を良好に反映することを報告した。今回、臨床応用に向けて改良した LSFG を用いた眼血流測定方法の確立および、その信頼性を検討した。眼血流指標である Mean Blur Rate(MBR)は、COV: 3.8±0.6%, ICC:0.94 であった。また、下肢挙上テストによって心係数と MBR は類似した変動を示した。

## C. 柳瀬武司奨学基金受賞講演

3.

### 潰瘍性大腸炎関連腫瘍におけるエストロゲン受容体 $\beta$ 発現について

松野 高久(消内)

潰瘍性大腸炎関連大腸癌(colitic cancer)は近年増加しており、通常の大腸癌とは発生経路が異なる。エストロゲン受容体  $\beta$  (ER $\beta$ ) の colitic cancer とその前癌病変における発現を通常の大腸癌、腺腫と比較して検討した。Colitic cancer では、通常の大腸癌に比べて有意に発現が低かった。ER $\beta$  の発現している領域では、Ki67LI が有意に高値で、細胞増殖に促進的に働いている可能性が示唆された。

## D. 大学院生研究発表

4.

### 間質性肺炎合併肺癌における血清 Exosome 中の microRNA の検討

砂川 泉子(生体応答系呼吸器内科学),  
指導教授:岸 一馬(内科学講座呼吸器内科学分野(大森))

特発性間質性肺炎(idiopathic interstitial pneumonia:IIPs)は高率に肺癌を合併するが、その発症機序は不明であり画像的及び血清学的診断が困難である。本研究では IIPs 患者群と IIPs 合併肺癌患者群の血清 Exosome 中 microRNA を Microarray 解析し、選択された microRNA と肺癌合併に関わる因子との分子機構を明らかにしていく。

## E. 大学院生研究発表

5.

### 心臓超音波画像のフラクタル解析による定量的数理解析

竹内 泰三(代謝機能制御系総合診療・救急医学)  
指導教授:瓜田 純久(総合診療・急病センター)

超音波検査は画像検査の中では簡便に行うことができ、また被爆などの侵襲もない。しかしながら評価や判断を行うには経験が必要であることが多い。フラクタル解析を用いることで、画像の変化をフラクタル次元として定量的に評価することが可能となる。今回、正常群と心収縮力が低下した患者群と比較検討を行った。心臓超音波画像のフラクタル次元は疾患群で有意に上昇を認めた。フラクタル次元は心臓組織の変化を定量的に評価することができる可能性が示唆された。

11月11日(木)

## I. 研修医発表

9.

### 息切れを主訴に受診し、悪性リンパ腫の診断に至った一例

田中 真帆(大森初期研修医)  
指導:山田 篤史・竹本 育聖(総合診療内科)

労作時呼吸困難を主訴に来院資料敗で wheeze 聴取し CT 検査で気管支壁肥厚、紹巴間隔壁肥厚を認め、肺水腫・呼吸困難も出現し心不全として治療し状態改善した。また、両側頸部、腋窩、肺門、縦隔、腹部傍大動脈領域、骨盤壁、鼠径部等全身性にリンパ節腫大を認め、S-IL2R の高値を認めたことから悪性リンパ腫が鑑別に挙がった。リンパ節生検の結果、悪性リンパ腫の診断となった。

10.

### 日本紅斑熱と診断された1例

時田 望(大森初期研修医)  
指導:前田 正(総合診療・急病センター 感染症科)

49歳男性。発熱・皮疹を主訴に来院。周囲に日本紅斑熱と診断された者がおり、検査所見と合わせて臨床的に日本紅斑熱と診断した。入院後はミノサイクリンにて治療を行い、重症化なく軽快し第11病日に退院となった。後日、日本紅斑熱に対する抗体価上昇が確認され日本紅斑熱の確定診断に至った。年間300例程度の日本紅斑熱の症例を経験したため、重症化因子に関する文献的考察を加え報告する。

11.

### フグの自己調理、摂取し、tetrodotoxin 中毒に至った一例

小堀 俊満(大森病院初期研修医)  
指導:山田 篤史(総合診療科)

日本における2009～2018年の10年間のフグ中毒の患者数は18～50人/年であり、死者数は0～1人/年と減少傾向にある。しかし、換気不全、循環不全を起こすことが多々あるため、初期治療を誤れば死に至る危険な疾患である。今回、フグ食が盛んに行われている日本においても見ることの少ない、フグ中毒の症例を経験した。

12. **左右注視方向性眼振を呈し Wernicke 脳症の診断に至った 1 例**
- 海老原 椿(大森初期研修医)  
指導:竹本 育聖・山田 篤史(大森総合診療内科)
- Wernicke 脳症は意識障害、眼球運動障害、失調性歩行が 3 主徴であるが、3 主徴全て揃うのは 16%程度にしか過ぎない。後遺症が残ることが多いため、早期に診断し治療介入することがきわめて重要である。今回、私は受診 2 カ月前から食事摂取不良が続き、眼球運動障害、歩行失調を来し Wernicke 脳症と診断した一例を経験したので報告する。
- J. 研修医発表
13. **既往のない 46 歳男性に生じた突発性痙攣の一例**
- 渡邊 健太郎 (大森初期研修医)  
指導:山田 篤史・竹本 育聖(総合診療科)
- 【症例】46 歳男性【主訴】痙攣発作【既往歴】特記事項なし【現病歴】自宅での就寝中に発症した痙攣発作を主訴に救急搬送された。入院時現症では vital は保たれ、診察上・血液検査所見・頭部 CT 画像診断では特記所見なかったが、脳波検査では右前頭部と側頭部に spike 形成認めてんかんの診断となった。頭部 MRI を施行したところ左側頭葉に脳動静脈奇形を認めた。本症例は脳動静脈奇形による焦点性てんかんの全般化に至ったと考えられた。
14. **診断に難渋した代謝性アシドーシスを認めた一例**
- 小野 拓真(大森研修医)  
指導:竹本 育聖・山田篤史(総合診療内科)
- 86 歳男性、下痢を主訴に来院された。下痢による代謝性アシドーシスを疑い絶食、補液で対応した。下痢改善も代謝性アシドーシスの改善なく、代謝性アシドーシス遷延したため、再度考察したところ、尿路変更術によるものが考えられた。尿路変更術による代謝性アシドーシスは珍しい症例でないものの、主訴に翻弄された症例を経験した。
15. **左脚ブロックを伴う低左心機能に合併した洞不全症候群に対し、心臓再同期療法(CRT)を施行した一例**
- 松井 貴裕(大森初期研修医 2 年)  
指導:秋津 克哉(当院 循環器内科助教)
- 呼吸困難を主訴に来院した 88 歳女性。レントゲンにて肺うっ血を認め、心エコーで低心機能を呈したことから心不全の診断で入院した。心電図は左脚ブロックであり、心不全改善後に冠動脈造影を施行。左前下行枝と回旋枝に病変を認めたが、RI での心筋生存能や病変形態を考慮しカテーテル治療は試行せず。左脚ブロックによる同期不全を伴う低左心機能であり、洞不全症候群も合併していたため、CRT を植え込んだところ心機能は改善した。

16. **眼窩先端症候群を生じた深在性真菌症の一例**
- 藤川 桃紀（大森初期研修医）  
指導：神山 和久（耳鼻咽喉科）
- 鼻閉、頭痛を主訴に来院された 76 歳男性。CT、MRI 検査にて真菌感染を疑う副鼻腔炎所見を認め、手術を行った。検体より組織内に浸潤する真菌像が認められ、深在性真菌症の診断で抗真菌薬治療開始されるも、抵抗性を示し、眼窩先端症候群を発症した。  
深在性真菌症の診断基準や原因、それに伴う合併症などに関して、文献的考察を加え報告する。

## K. 研修医発表

17. **汎血球減少をきたし再生不良性貧血と診断された一例**
- 田原 紘樹（大森病院研修医）  
指導：河越 尚幸（大橋病院 総合内科）
- 半年前からのふらつき、息切れを主訴に外来受診、8 か月前の健康診断では血液検査の異常認めなかったが、受診時重度の汎血球減少を認めた。採血・画像検査からは明らかな汎血球減少の原因は指摘できず。多系統の血球減少であることから、血液疾患を疑い骨髓穿刺を施行したところ、低形成骨髓認めたため再生不良性貧血の診断となった。輸血と G-CSF の投与により症状・血液データは改善し退院、血液内科にて外来通院治療となった。

## L. 一般演題

18. **腸管熱傷の一例**
- 関 駿介（佐倉病院 内科学講座消化器内科学分野）
- 二分脊椎による膀胱直腸障害で定期的な腸内洗浄を行っていた21男性が旅行先で誤って熱湯で腸内洗浄を施行した。その後より下腹部痛と血便が持続するため精査加療目的に当院を受診した。入院日より絶飲食と抗菌薬の点滴投与を開始し、第42病日に腸内洗浄を再開し、第70病日に常食へ食上げた。今回、入院中から外来時も含めて経時的に内視鏡で粘膜を評価しながら治療を行った腸管熱傷の一例を経験したので報告する。

## M. 大学院生研究発表

19. **Syk 阻害薬の川崎病類似血管炎マウスモデルにおける血管炎抑制効果**
- 浅川 奈々絵（生体応答系病院病理学）  
指導教授：高橋 啓（病院病理学講座（大橋））
- 川崎病は代表的な小児血管炎症候群である。川崎病類似血管炎マウスモデルでは自然免疫系である dectin-2-Syk-CARD9 経路の活性化が血管炎発症に関与するとの報告がある。本モデルにおける Syk 阻害薬の血管炎抑制効果について検討した。心基部大動脈の血管炎発生率、炎症の程度、侵襲区域数について評価し、治療群で有意に血管炎が抑制された。Syk 阻害薬は川崎病血管炎に対する新規治療薬の一候補となり得る可能性が示唆された。

## N. 分科会報告

20. **(佐倉神経精神セミナー)脳疾患と転倒関連手術**  
榊原 隆次(佐倉認知症ケアチーム・脳内他)  
当院年間入院 11134 名中転倒関連手術が 124 名(男性 40 名,女性 68 名,年齢 83 歳)みられ、整形外科(OP、大腿骨転子部骨折): 脳神経外科(NS、硬膜下血腫)=2:1 の比率であり、基礎疾患はアルツハイマー病+多発性脳梗塞の合併が多く、一部にレヴィー小体型認知症、NS でアルコール認知症が多くみられた。患者ケアの観点からこれらに留意すると良いと思われた。

11 月 12 日(金)

## P. 研修医発表

21. **不明熱を主訴に来院され原因不明の脳幹脳炎を発症した1例**  
玄 宇京(大森病院研修医)  
指導:佐々木 陽典(総合診療内科)  
5 日間続く発熱と頭痛で来院された 21 歳男性。第 3 病日には下肢脱力、排尿障害、酸素化不良を認め、第 11 病日に呼吸筋麻痺による呼吸不全が進行し挿管管理となった。臨床経過に加え、抗 GQ1b IgG 抗体陽性であること、頭部 CT 再検で脳幹部低吸収域と水頭症を認めたこと等からビッカーstaff型脳幹脳炎と診断した。ステロイドパルス療法、免疫グロブリン療法を行ったが奏功しなかった。

## Q. プロジェクト研究報告

22. **間質性肺炎における血中 Autotaxin 濃度の解析**  
清水 宏繁(呼吸器内科)  
間質性肺炎に関わる脂質メディエーターとして Autotaxin (ATX) が近年注目されている。安定期及び急性増悪時の血清 ATX 値を fluorescence enzyme immunoassay 法を用いて測定した。血清 ATX 濃度は健常対照者と比較して間質性肺炎患者で有意に高く、疾患の進行や転帰と関連を認め、有望なバイオマーカーであることが示唆された。

## R. 大学院生研究発表

23. **グリオーマ細胞における ephrin-A2 の機能解析**  
平井 希(高次機能制御系脳神経外科学)  
指導教授:岩渕 聡(東邦大学医療センター大橋病院)  
チロシンキナーゼである Eph 受容体/ephrin リガンドシステムは細胞間接着を介したシグナル伝達様式を持ち、がん細胞の遊走・浸潤・細胞増殖などの悪性形質に関わっている。ヒトで 14 種類存在する Eph 受容体の膠芽腫における機能は徐々に解明されているが、9 種類存在する ephrin リガンドに関する報告は少なく、中でも ephrin-A2 に関する報告はない。今回、グリオーマ細胞株における ephrin-A2 の分子生物学的解析を行ったので報告する。

## S. プロジェクト研究報告

24.

### ドライアイ誘発神経障害性疼痛に対する三叉神経核を標的とした新規治療法の開発

鄭 有人(大森眼科)

ドライアイ誘発性神経障害性疼痛の発症機序に基づいた治療戦略の開発を目的とした。ドライアイモデルラットにおいて、プレガバリン持続投与により角膜過敏と疼痛過敏が著明に減弱した。角膜由来の三叉神経核における神経興奮、アストロサイトの活性化、電位依存性  $\text{Ca}^{2+}$  チャンネル  $\alpha 2\delta$  サブユニットの蛋白発現量上昇がドライアイ発症前のレベルまで抑制された。以上のことから、ドライアイ誘発神経障害性疼痛にプレガバリン治療が有効である可能性を見出した。